

修正会

南無阿弥陀仏。新年のあいさつは、まずは、お念仏から始めさせて頂きます。蓮如上人は、「あらたまの年の初めは祝うとも南無阿弥陀仏のころわするな」と読まれて南無阿弥陀仏と称えることによつて新年が本当の意味での新年をむかえる事ができるとおっしゃられています。

新年の最初の仏事は、「修正会」から始まります。これは、中国の年始の儀式が日本に伝わったもので、前の年の悪を正して新年の平穩を祈る法会として奈良時代初めから国家規模で広がりました。この新しい年を迎えるという感覚は、数え年になじみの深い方は、より理解しやすいかも知れません。

昭和24年の「年齢のとなえ方に関する法律」により日本でも現行の満年齢による年齢の表記になりましたが、それまでは数え歳が使われていて生まれた年を「1歳」と

して暦年が変わると1歳年をとるという習慣でした。年末に今年も一年無事に過ごせたという感謝。そして、年明けの今年も1歳年を重ねることができたという喜びは、現代の満年齢に慣れている年代の人よりも格別なものでしょう。

新しい年を会員様と共に迎えられる事を感謝して、本年も精進してまいります。

もちつき大会

昨年の12月27日(火)に太陽の塔で第1回目となるもちつき大会が行われました。1年の感謝と、本年の会員様の益々の健康をお祈りしご参集いただいた方とお餅をついて楽しめました。用意されていたせんざいや豚汁などで大盛況となり、年末のささやかなご奉仕となりました。



秋まつり

朝夕が少しずつ秋の訪れを感じられるようになった11月6日(日)に太陽の塔で秋まつりが開催されました。当日は、天候にもめぐまれ多くの人でにぎわいました。



おいしい屋台の他、人気占い師による占いコーナー、地元の太鼓隊による生演奏が披露され地元の子供たちが一生懸命に演奏する姿に集まった方々から大きな歓声があがりました。フラワーアレンジメントやみほぐしなど日頃のストレスに対して心も身体も癒していただけのコーナーも充実していました。

太陽の塔では、今後も様々なイベントを企画して参りますので、会員様に限らず多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

成人式

毎年1月の第2月曜日は、成人の日です。昭和24年の制定から平成11年までの半世紀の間は、1月15日に制定されてきましたので、それより早い日にちで来る成人の日は、テレビなどのニュースで気づくか町中に晴れ着の若者が集まっている姿で、ようやく気づかされることが多いです。成人を祝う儀式は古くからあり、一種の通過儀礼のような役目を果たしていました。しかし、その儀式の役割も様々な形態に変化して、ひと昔前だと長い祝辞を肩書のついた偉い大人たちが読み上げるのを聞いているような感じでしたが、現代ではアトラクション化した成人式が自治体によっては、行われているようです。18歳選挙が始まり20歳をむかえるより前に政治への参加になり「権利」と同時に「責任」を手にするわけです。その責任の所在を社会人経験の浅い10代の若者に課すのはいささか問題があるかと思えます。今年も多く成人を迎えるにあたり、私達が社会に受け入れられる頑丈な土台を築くべきと襟を正さなければなりません。

「門徒」という呼び方

「門徒」は、もともと「一門の徒輩」つまり一つの宗門の仲間と言う意味で、広く使われていました。

親鸞聖人のお聖教のなかに「門徒」という言葉が出てきます。しかし、そこでは法然上人を師とする門下生という意味として用いられています。

この「門徒」が、真宗の在家信者というふうに限定されてくるのは、蓮如上人の時代になって、他力念仏の教えが広まり、本願寺は日本でも有数の大教団に成長したことで、「門徒」が真宗の信者であるという認識になりました。以来、門徒という真宗信者、門徒寺といえ、真宗寺院を指す言葉として、日本人の間に定着しました。

親鸞聖人のお言葉の中に、「御同行、御同行」という言葉があります。聖人は、念仏者は、世俗の地位や男女、年齢など、あらゆる違いをこえて一切が平等であり、友であると言われています。門徒とは、真宗信者であり、それは御同行、御同行であります。

仏教由来の言葉「ないしょ」

「ないしょ」は、内証の転じた言葉で、内緒内所と書く場合があります。本来は、「ないしょ」と言い、仏や菩薩が自分の内心のさとりによって、仏教の真理をつかむという意味です。

ところが、今では表に出さず、内密にしておくことを「ないしょ」という場合が多いです。

「この話は、ないしょにしよう」
などというふうに使われています。

また、ある地域では、家の奥向き、台所、妻、家計などの意味でも用いられました。いずれも、表へは出しにくい家庭内部の人や物品の総称で使われています。

語源となった「内証」は、仏や菩薩のみの内面的なさとりから発したものです。また、衆生済度の任にある仏・菩薩が、中心のさとりをそのまましまっておかれるはずがなく、接する人々に応じて変幻自在な形でそれを説きあかされました。これを「外用」といいます。人と仏様は、大きく異なるものなのです。

正念の徳・得コーナー

トク トク

▽報恩講は、なぜつとめる？

とくとく
 土徳という言葉があります。お念仏の信心のあつい土地の風土をさして、そう言われてきました。そのお念仏の風土を代表するのが、秋から初春にかけての報恩講です。宗祖の親鸞聖人の恩徳をしのぶ法会が家々でもつとまり、精進料理による伝統の会食が伝えられてきました。

例えば、吉野(奈良県)の山村の在家報恩講の献立は、一汁三菜です。お平の煮物の盛り付けにひとつの形があります。ふたをとると、一番上に椎茸がのつて、その下に人参とごぼう、山芋がならび、底に三角形の油揚げが敷かれています。この形に意味があるのです。関東を教化されていた頃の親鸞聖人のお姿がそこにあります。椎茸は笠ごぼうは杖、油揚げは袈裟です。山芋は石聖人が寒夜、路傍の石を枕に寝られたという有名な伝説の石です。そして人参は、手足のあかぎれ。晩秋から真冬にかけての念仏の集会のぬくもりのなかで親鸞聖人のこ

苦勞をしのぶのです。報恩講は、親鸞聖人のご命日(旧暦11月28日、新暦で1月16日)に勤められる報恩の講(法会)です。このご命日の事を「御正忌」と呼び、一般の寺院では本山のご正忌の報恩講にさきがけて勤められることから、「お取越し」などと呼ばれます。尚、当宗教法人太陽の会では、平成29年1月21日(土)10時よりご正忌報恩講を開催いたします。多くの皆様のご参拝お待ちしております。

太陽の会僧侶 正念

太陽の塔の選ばれる理由

- ①宗派不問宗派関係なく、どなたでも利用できます。
- ②改葬受付お墓の引越しの手続きや、古いお墓の片付けまですべてお任せください。
- ③安心の永代供養お墓のように手間のかかる管理は不要です。無縁になっても、合同供養方式で永代供養致します。太陽の塔のしっかりした管理のもと、安心です。
- ④僧侶常駐太陽の塔桜ヶ丘には僧侶が常駐しています。

墓じまい・改葬について①

墓じまいとは、様々な理由からお墓の管理が出来なくなつた場合に今のお墓を処分する事で、最近メディアにも多数取り上げられております。

ただし、墓じまいはお墓を解体するだけでよいわけではありません。埋葬・埋蔵されている遺骨を勝手に処分する事も出来ません。

埋葬された遺骨を、他の墓地や納骨堂、樹木葬に移すことを改葬と呼びます。

簡単にいえば「お墓を引越す」ことです。

改葬には、市区町村が発行している改葬許可証が必要になります。

よくある墓じまい改葬の理由

- ・お墓が遠方でお参りに行けない。
- ・往復の交通費の負担が大きい。
- ・手入れが行き届かないため荒れてしまう。
- ・複数の墓をひとつにまとめたい。
- ・次回に続く・・・



これで安心！終活を今日から始める方法

皆さまこんにちは。エンディングノート普及協会代表・日本終活サポート協会理事の赤川なおみです。終活の悩みを解決するための終活講座、終活相談、終活井戸端会議を行っております。

前回の「終活初めの一步」は「家系図を書いてみましょう」でした。書いてみていかがでしたか。連絡先がわからない親族などは確認できたでしょうか。今回も、終活を今日から始めるためのワンポイントをお伝えします。

○終活箱の見直しを

これまで会報を読んでくださっている方は、きつと終活箱に少しずつメモを入れてくださっていることでしょう。そこで、今回は年の初めに「終活箱の見直し」を試みましょう。

ご用意いただいた終活箱には、保険証や年金手帳、介護保険証、マイナンバーなど、返還の義務がある物の置き場所のメモを入れておきましょうとお伝えしましたが、さて何を入れていますか。情報が古くなつて

いませんか。まずは、箱の中に入れた物やメモを、全て出してみましよう。書いたメモを見直してみてください。置き場所が変わっていたり、気持ちが変わったものはありませんか？特に置き場所を書いたメモは、書いた場所に置いてあるかどうか確認してみましょう。使った後どうするかそのままだなっていたということもありますね。



終活箱は、「今の状態でメモをして入れる」ということも大切ですが「定期的に見直す」ということが、とても大切です。年の初めや誕生日など、見直しの時期を決めておくといいですね。

○終活初めの第一歩

今日の第一歩は「保険の確認」です。保険をかけている方、今その保険は本当に必要ですか。受取人は誰ですか。保険は「かけて安心」ではなく適切な保険に入ることが大切です。今一度確認しましょう。

わからないことがある方、ご自身に必要な終活を見極めたい方は、終活相談会をご活用ください。

平成29年

太陽の会 年間予定



○ご正忌報恩講合同供養祭及び法座

開催日 1月21日(土) 10時より

○合同供養祭及び法座

開催日 2月25日(土) 10時より

○春季彼岸会・合同供養祭

開催日 3月18日(土) 10時より

○花祭り

開催日 4月8日(土) 10時より

○親鸞聖人降誕会法要及び合同供養祭

開催日 5月20日(土) 10時より

○合同供養祭及び法座

開催日 6月17日(土) 10時より

○盂蘭盆会

開催日 8月12日(土) 10時より

○秋季彼岸会・合同供養祭

開催日 9月23日(土) 10時より

○合同供養祭及び法座

開催日 10月14日(土) 10時より

○合同供養祭及び法座

開催日 11月18日(土) 10時より